

安心協 I L A S  
2 0 1 7 年 度 最 終 報 告 書

2018年3月31日  
安心ネットづくり促進協議会  
普及啓発広報委員会  
I L A S 検 討 サ ブ ワ ー キ ン グ

## 内 容

はじめに .....	-3-
1. 本年度の活動方針と体制 .....	-4-
1-1. 調査対象	
1-2. テスト問題	
1-3. テスト形式	
1-4. I L A S 検討サブワーキング体制	
1-5. テスト実施協力者の一覧	
2. 調査結果総論.....	6-
2-1. 対象別×設問別の分析	
2-2. 対象別×属性別の分析	
2-3. 対象別×利用状況別の分析	
2-4. 対象別×啓発経験別の分析	
2-5. 対象別×インターネットの適切利用自信別の分析	
2-6. 保護者のしつけに対する自信×正答率の分析	
2-7. その他	
3. 総括 .....	-18-
4. 来期の活動方針 .....	-19-
5. 安心協 I L A S の本年度活用事例 .....	-20-

はじめに

今回5年目となる「安心協 I L A S」の調査と検証は、青少年のインターネット環境整備に取り組む安心ネットづくり促進協議会の活動の一環として、主に保護者と青少年を対象にインターネット・リテラシーを可視化しようとする試みである。

本年も、引き続き総務省が青少年のインターネット上の危険・脅威に対応する能力を可視化するために定めている指標である I L A S (Internet Literacy Assessment indicator for Students) の7つのリスク分類を援用する形で、研修会の機会等を活用して比較的短時間で誰でも協力可能なテストとするために、平易な表現で最新かつ具体的な設問内容に努め、多くの関係者の協力を得て今年度の調査を完了した。

今回分析・検証した結果は、単なる分析にとどまらず、青少年や保護者のインターネット・リテラシー向上に取り組む当協議会及び会員企業・団体等の各地での普及啓発活動や、安心安全サービスの提供・改善につなげていくことを目指している。

## 1. 本年度の活動方針と体制

立ち上げ当初は、調査研究委員会傘下で活動を行ってきたが、2015年度からは普及啓発につなげる活動と位置づけ、普及啓発広報委員会（普及啓発活動作業部会）傘下のサブワーキングとして活動を実施。本年度も同様の体制で活動を実施した。

安心協 I L A S では、総務省が I L A S の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類をもとにして、小学生から大人まで短時間で実施できるテスト及び解説集を作成し、啓発活動への連携を目的とし、対象を小学生から保護者まで幅広く調査を行った。

### 1-1. 調査対象

安心協 I L A S は、啓発活動との連携を目的としているため、小学生から保護者までを対象とした。また、保護者のアンケートでは、小学生を持つ保護者、中学生を持つ保護者、高校生を持つ保護者を切り分け、人数バランスを鑑みて行った。

### 1-2. テスト問題

総務省が I L A S の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類を元に作成した。問題の種類は【保護者・中高生用】を基本として、読解力に依存しない調査とするため【小学生用】を別に作成。全 2 パターンで各 21 問とした。

※インターネットを安心安全に活用するためのリテラシー分類（大分類 3・中分類 7）

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力	
1-a	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
1-b	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力	
2-a	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる
2-b	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる
2-c	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力	
3-a	プライバシー保護を図り利用できる
3-b	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる

### 1-3. テスト形式

【保護者・中高生用】「3択式」

【小学生用】「○×2択式」

上記に「言葉や内容の意味が分からない」、「意味がわからない=△」を選択肢に加え、問題の理解度を正誤とは別の観点で分析を行った。

### 1-4. ILAS検討サブワーキング体制

以下の体制でサブワーキングの運営を行った。

リーダー 齋藤 長行 氏（株式会社 KDDI 総合研究所 研究主査）

参画団体・事業者 ※順不同

内閣府、総務省、文部科学省、警察庁、インターネットコンテンツ審査監視機構、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、NPO 法人企業教育研究会、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、エースチャイルド株式会社

### 1-5. テスト実施協力者の一覧

No	実施	対象	協力人数
1	岩内高等学校	高校生	22
2		保護者	10
3	山形県立寒河江工業高等学校	高校生	74
4		保護者	62
5	埼玉県立松山高等学校	高校生	72
6		保護者	77
7	新潟県立新潟中央高等学校	高校生	107
8		保護者	107
9	愛知県立緑丘商業高等学校	高校生	79
10		保護者	19
11	奈良県立添上高等学校	高校生	80
12		保護者	38
13	下関商業高等学校	高校生	198
14	鹿児島県立川薩清修館高等学校	高校生	120
15		保護者	90
16	札幌平岸高等学校 PTA（保護者会）	保護者	121
17	東京都公立高等学校 PTA 連合会	保護者	68
18	白河市教育委員会	保護者	666
19		中学生	518
20		小学生	516
	<b>全箇所 20 箇所</b>	保護者 1,258 人 高校生 752 人	<b>3,044 人</b>

	中学生 518人	
	小学生 516人	

協力依頼にあたり、「一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会」、「白河市教育委員会」に実施趣旨のご理解、ご協力をいただいた。

## 2. 調査結果総論

### 2-1. 対象別×設問別の分析

図表 2-1-1 と図表 2-1-2 より、保護者の正答数の中央値は 20・最頻値は 21、高校生の中央値は 18・最頻値は 19、中学生の中央値は 18・最頻値は 21、小学生の中央値は 16・最頻値は 20 となった。この正答数の分布図は高得点層に偏った結果となった。

図表 2-1-3 では、7 項目のリテラシー分類別の正答率を示しており、全体的に「1a 違法情報への対応」の正答率が低く、高校生は特に他の分類より低い、小学生では加えて「3a 適切なプライバシー保護」「3b 適切なセキュリティ対策」が低い結果となった。

図表 2-1-4 より、全対象に共通して「no9. 歌詞の著作権」、「no11. 出会い系サイト規制法の理解」、「no19. セキュリティソフトの知識」の正答率が低い傾向となった。また「no14. 環境整備法」に関しては、保護者の正答率は高かったのに対して、高校生、中学生では低い結果となった。

図表 2-1-5 は、設問ごとの不認識率（各設問の全回答の中で、「言葉の意味がわからない」を選択した割合。設問の理解ではなく、テクニカルワードに対する認知を確認するための選択肢）を示している。

「no19. セキュリティソフトの知識」に関しては、全対象に共通して不認識率が高い傾向を示している。保護者では「no10. ゲーム課金の対応と知識」、高校生では「no1. ゲームの利用時間に対する配慮」「no8. ID 交換掲示板に対する理解」「no14. 環境整備法」、中学生では「no3. 著作権侵害」「no8. ID 交換掲示板に対する理解」「no14. 環境整備法」「no18. クレカの使用範囲」「no21. ウィルス対策」の不認識率が他の設問に比べて高い結果となった。

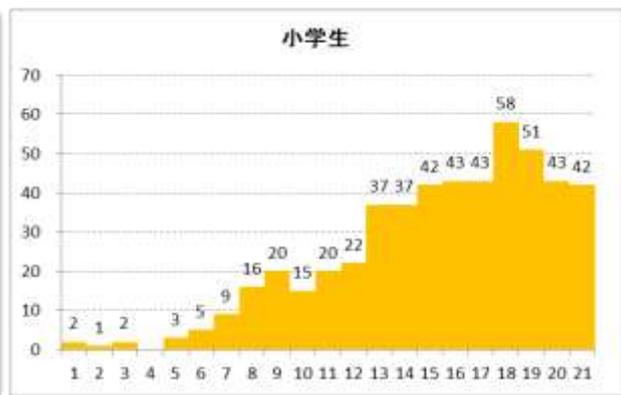
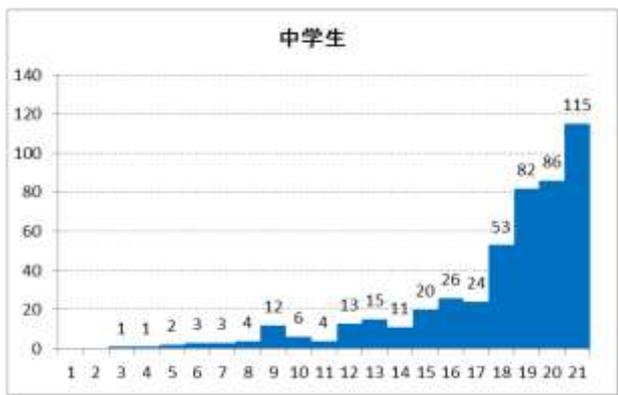
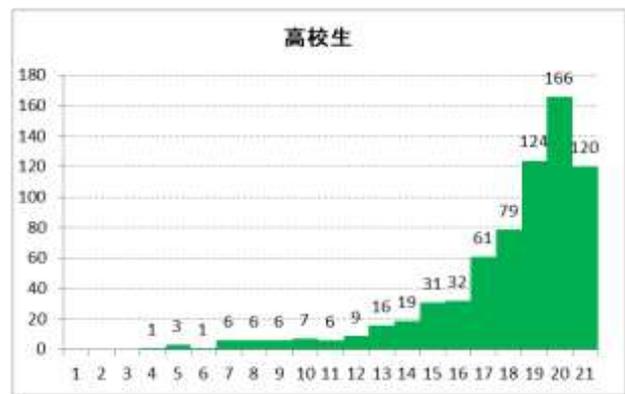
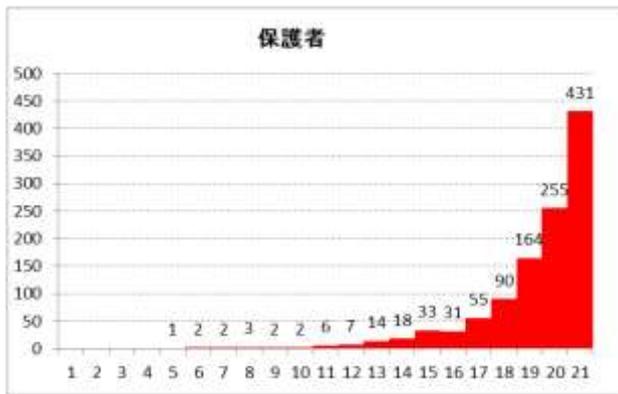
これらの結果を基に、今後の啓発教育には、青少年の各学齢期および保護において不足する知識を補うための施策が求められると言える。さらに言えば、その様な不足する知識を補うためには、①インターネットリスクに対する理解を高める教育と、②テクニカルワードの認知を高める教育とを、各学齢期の理解・認識状況に応じて効果的に組み合わせる必要があると言えよう。

図表 2-1-1. 基本統計量

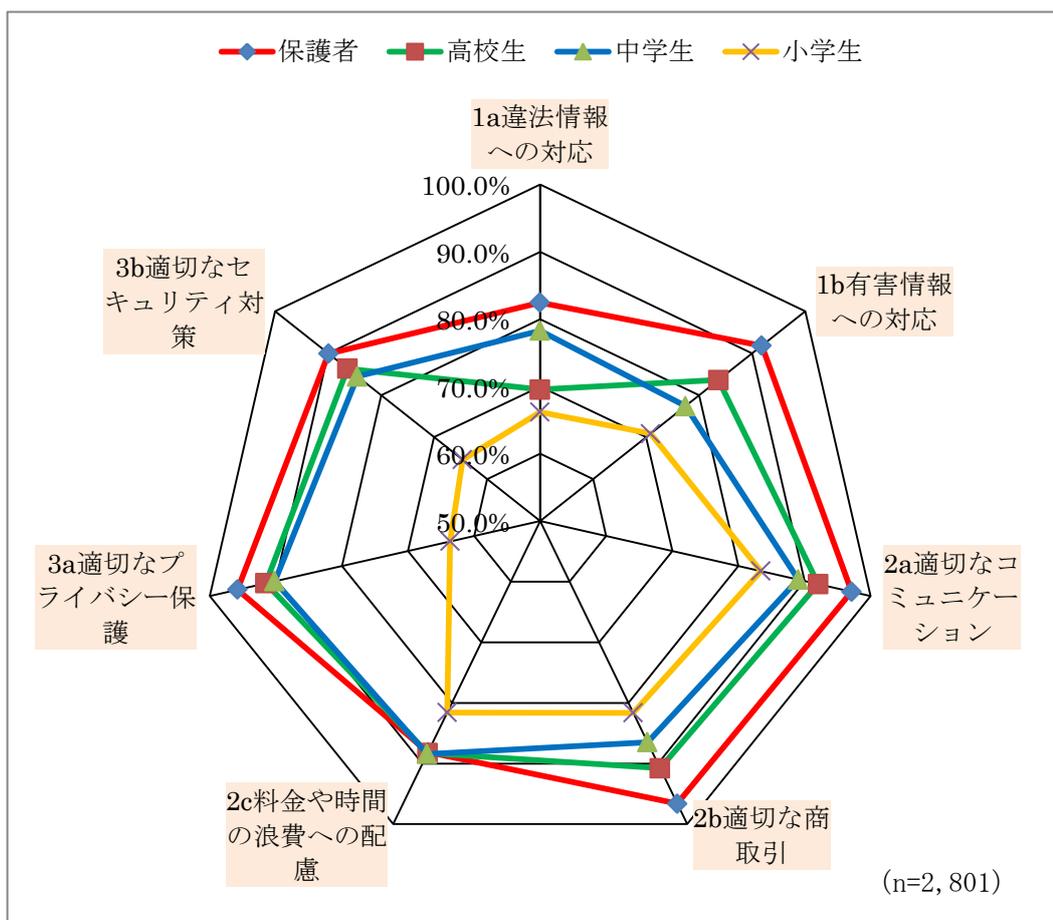
	■保護者	■高校生	■中学生	■小学生
正答率	91.7%	86.0%	84.9%	73.3%
中央値（メジアン）	20	19	19	16
最頻値（モード）	21	20	21	18
標準偏差	3.84	4.55	4.80	4.34
有効数（分析対象数）	1,116	682	474	470

※無効条件を「解答空白が1個以上」もしくは「言葉や内容の意味が分からない」を11個以上選択したものを除外して集計対象とした。

図表 2-1-2. 正答数分布図



図表 2-1-3. 7項目のリテラシー分類別の正答率



	保護者	高校生	中学生	小学生
1a違法情報への対応	82.5%	69.6%	78.3%	66.2%
1b有害情報への対応	91.8%	83.6%	77.4%	70.8%
2a適切なコミュニケーション	97.1%	92.1%	89.1%	83.4%
2b適切な商取引	96.6%	90.8%	86.5%	81.6%
2c料金や時間の浪費への配慮	88.1%	88.3%	88.4%	81.6%
3a適切なプライバシー保護	95.8%	91.5%	90.2%	63.6%
3b適切なセキュリティ対策	89.9%	86.3%	84.5%	64.6%

※網掛けは、対象ごとに正答率の下位2分類を示している。

図表 2-1-4. 保護者と青少年の設問ごとの正答率（詳細表）

設問	リスク分類	設問の趣旨	正答率 (%)			参考 <sup>1</sup>
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	91.7%	84.0%	86.1%	97.3%
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	94.2%	92.4%	89.8%	75.8%
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	89.3%	83.3%	82.5%	68.6%
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	97.2%	91.5%	90.9%	79.1%
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	95.6%	95.5%	90.9%	87.3%
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	97.3%	95.4%	95.6%	78.1%
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	93.4%	83.7%	87.7%	74.4%
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	89.1%	83.1%	76.9%	71.9%
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	83.7%	59.0%	81.7%	63.1%
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	75.3%	84.6%	84.4%	72.9%
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	74.4%	66.4%	70.7%	67.0%
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	97.5%	96.2%	94.8%	74.6%
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があつた際の対応	96.9%	90.2%	85.0%	94.5%
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	92.2%	75.5%	65.5%	64.8%
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	94.4%	83.7%	84.0%	25.4%
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	96.6%	93.5%	87.7%	93.9%
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	97.3%	94.5%	91.3%	76.6%
18	2b 電子商取引の理解	クレカの利用者範囲の理解	96.2%	83.4%	79.4%	69.7%
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	82.2%	83.0%	78.4%	67.4%
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	97.0%	95.4%	92.3%	81.3%
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	94.2%	92.4%	87.3%	52.1%

※赤字は、正答率 80%未満を示している。

※網掛けは、共通して正答率が低い設問を示している。

<sup>1</sup> 保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題（3択式）で実施したため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題（〇×式）であるため、保護者・高校生・中学生との比較対象分析はせず、参考データとする。

図表 2-1-5. 保護者と青少年の設問ごとの不認識率<sup>2</sup> (詳細表)

設問	リスク分類	設問の趣旨	不認識率 (%)			参考
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	7.0%	11.2%	8.7%	0.6%
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	3.2%	5.1%	5.4%	13.6%
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	4.8%	6.0%	10.4%	26.4%
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	1.0%	3.9%	4.3%	14.7%
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	3.7%	5.7%	7.7%	10.7%
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	1.5%	3.5%	5.4%	5.4%
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	0.8%	3.5%	4.3%	12.6%
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	5.3%	10.1%	12.4%	22.5%
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	4.1%	10.0%	6.8%	20.9%
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	13.6%	9.8%	7.7%	11.8%
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	6.3%	8.2%	9.1%	17.8%
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	1.2%	5.6%	6.8%	14.1%
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	2.8%	8.8%	8.5%	2.7%
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	4.4%	12.4%	17.2%	23.8%
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	3.1%	10.0%	8.9%	19.2%
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	1.8%	5.1%	6.4%	3.7%
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	2.1%	6.6%	8.1%	18.8%
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	2.5%	9.6%	12.0%	19.6%
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	10.2%	12.4%	14.3%	27.5%
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	2.6%	5.6%	8.5%	14.5%
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	3.3%	8.1%	13.0%	29.5%

※赤字は、認識不足率が10%以上を示している。

※網掛けは、共通して不認識率が高い設問を示している。

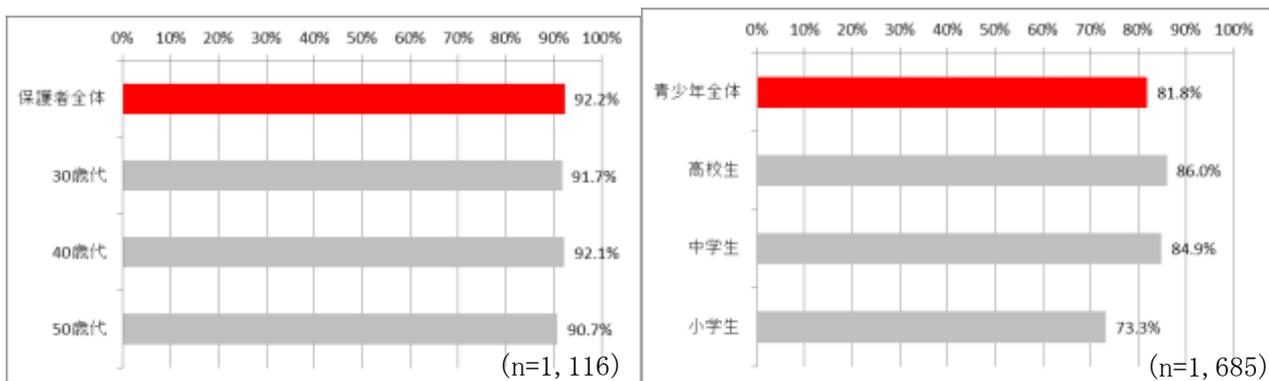
<sup>2</sup> 各設問の全回答の中で、「言葉や内容の意味がわからない」を選択した割合。

## 2-2. 対象別×属性別の分析

図表 2-2-1 より、保護者の正答率は年齢ごとではほぼ変わらず、青少年は学齢が低くなると正答率が低くなる結果となった。

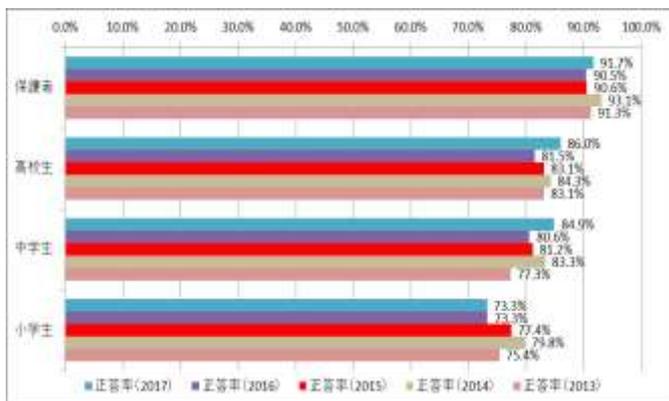
図表 2-2-3 では、性別ごとの正答率を示しているが、全対象に共通して女性の正答率が高い結果となった。

図表 2-2-1. 保護者と青少年の正答率と内訳

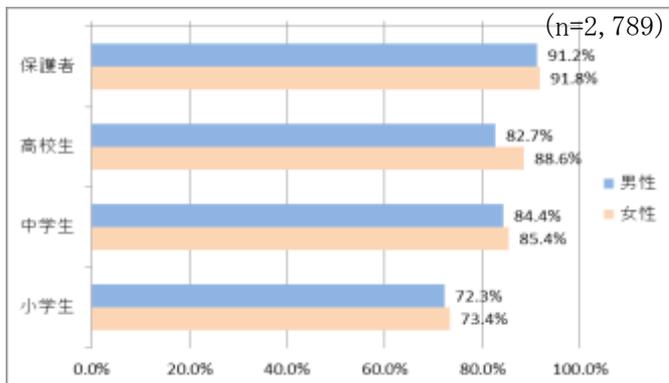


※30歳未満、60歳以上の被験者が少ない（1%未満）のため非掲載としている。

図表 2-2-2. 保護者と青少年の正答率（経年比較）



図表 2-2-3. 性別ごとの正答率



### 2-3. 対象別×利用状況別の分析

図表 2-3-1 では、保護者と青少年におけるインターネットの利用内容を示しており、保護者はコミュニケーションアプリ（80%）・メール（68%）・検索（64%）、高校生はコミュニケーションアプリ（89%）・動画（76%）・検索（72%）・SNS（72%）・音楽（72%）、中学生は動画（79%）・検索（72%）・ゲーム（66%）・コミュニケーションアプリ（66%）、小学生はゲーム（59%）・動画（58%）が上位と、各年代コミュニケーションアプリの利用が高いが、その他の利用については、年代毎に異なる結果となっている。2016 年度に比べ保護者のメール利用が減り、コミュニケーションアプリが増え、メール利用については、各年代で低下傾向となっている。

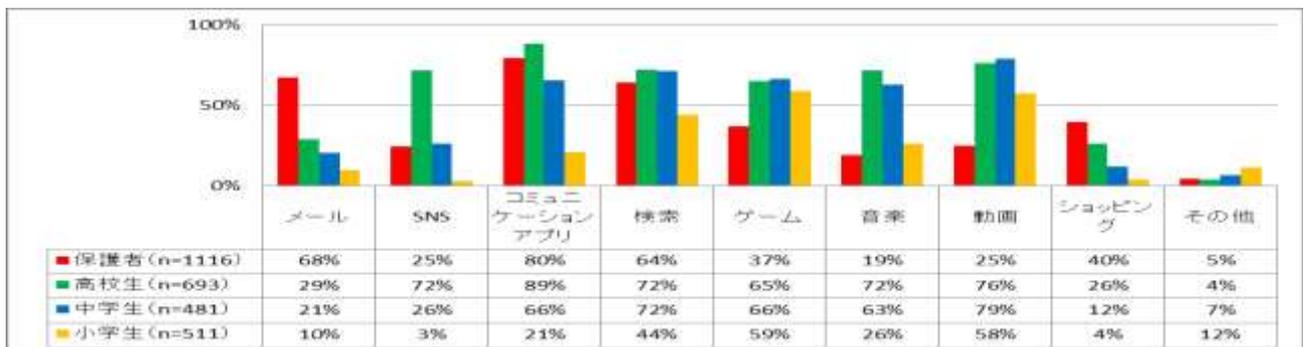
図表 2-3-2 では、青少年におけるインターネットの利用期間を示しており、高校生では 84.3%、中学生では 77.1%、小学生では 55.9%が 1年以上利用していると回答している。

図表 2-3-3 では、インターネットの 1 日の利用時間を示しており、高校生では約 68%が 1 日 2 時間以上、約 15%が 1 日 5 時間以上モバイルでのインターネットを利用している。パソコンでのインターネット利用はモバイルに比べ使っていない比率が高く、利用時間も短い。

図表 2-3-4 では、「利用期間と正答率」に関して、インターネット利用の初期段階では、リテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定される。

図表 2-3-5 では「利用時間と正答率」に関して、高校生では、全く利用しないのではなく、ある程度利用経験はあるものの、利用し過ぎず、適度に利用をコントロールできている青少年が、リテラシーが高いことを示している。

図表 2-3-1. 保護者と青少年におけるインターネットの利用内容（複数回答）

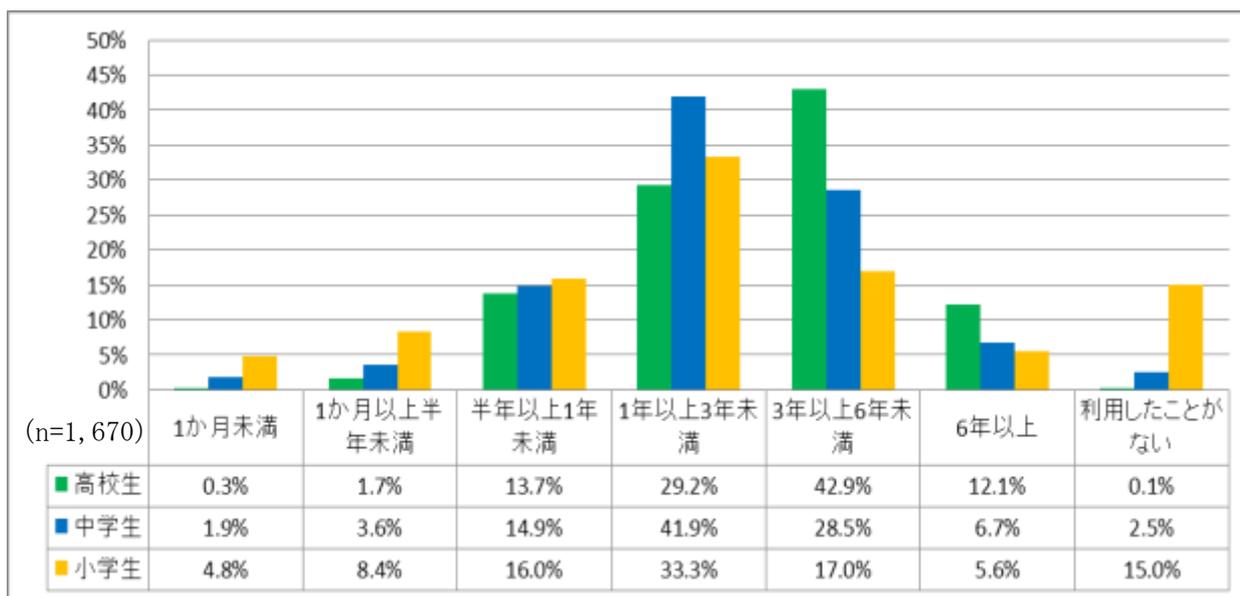


【参考】 2016 年度調査結果



※SNS (Facebook・Twitter など)、※コミュニケーションアプリ (LINE など)。

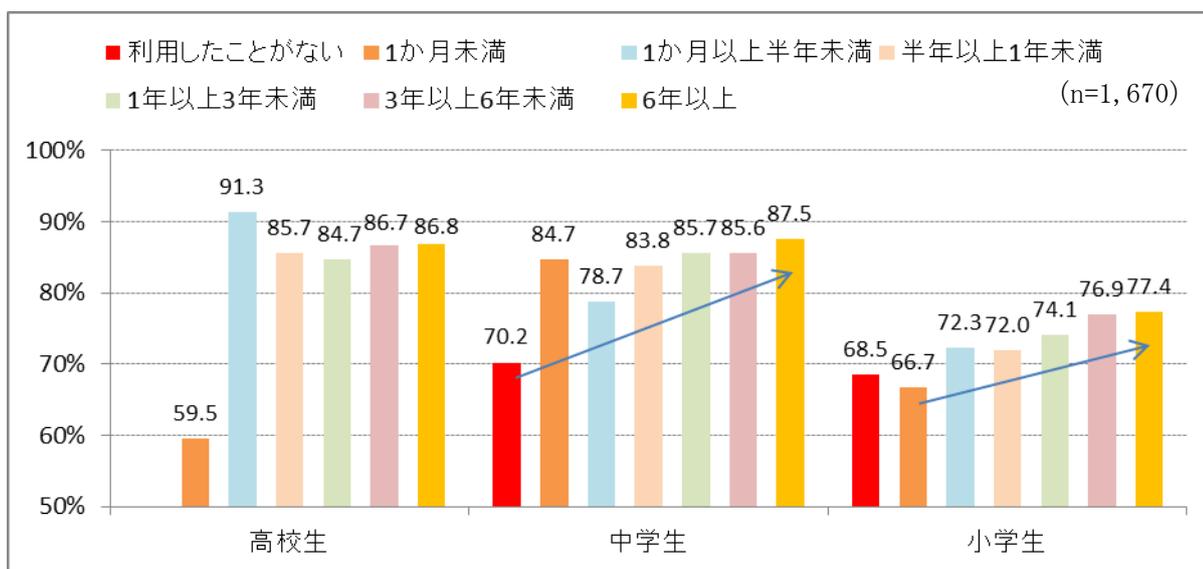
図表 2-3-2. 青少年におけるネットの利用期間



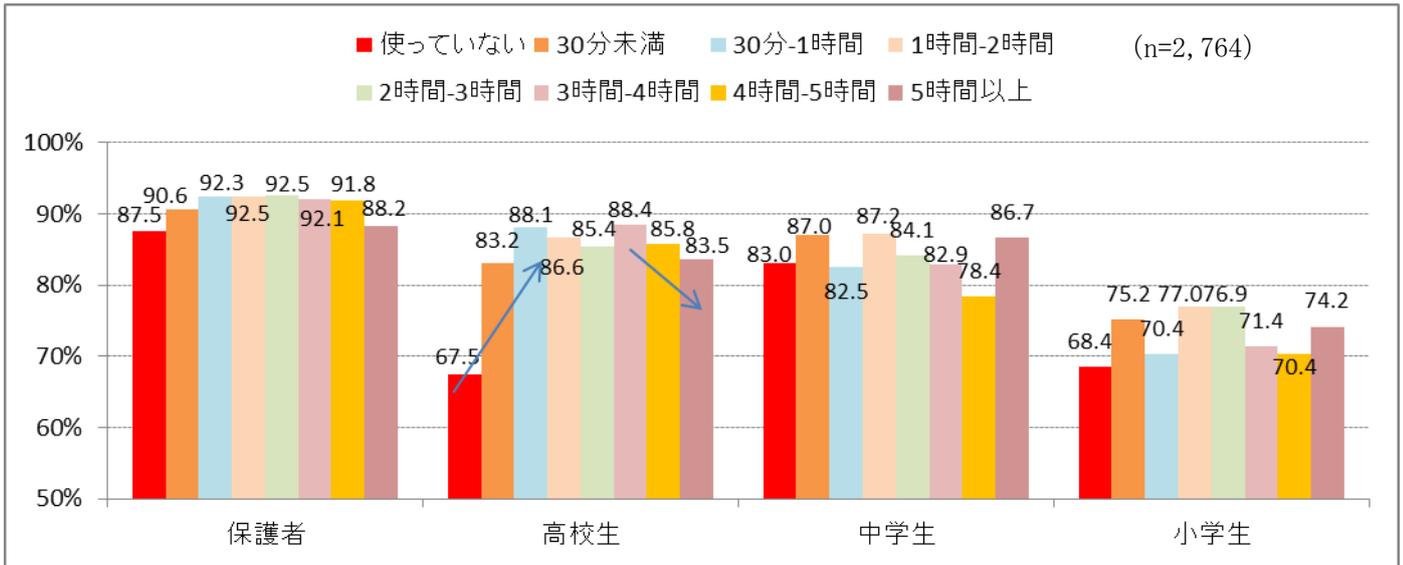
図表 2-3-3. 保護者と青少年におけるインターネットの1日の利用時間



図表 2-3-4. ネットの利用期間と正答率



図表 2-3-5. ネットの1日の利用時間 (モバイル) と正答率



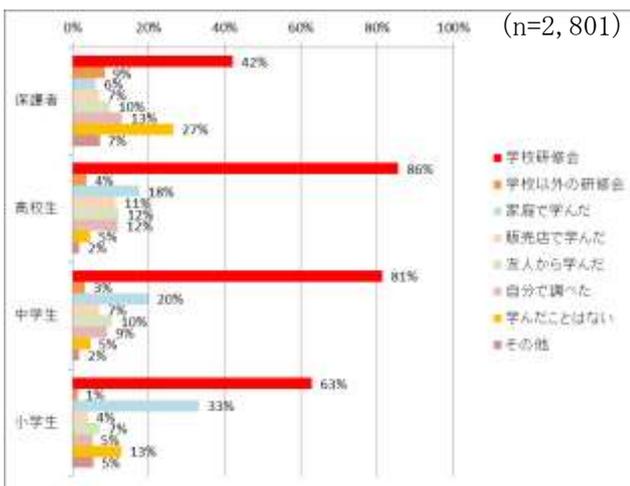
#### 2-4. 対象別×啓発経験別の分析

図表 2-4-1 より、啓発教育経験では学校研修会の経験が増えているが、保護者の約 27%が「学んだことはない」という回答しており、青少年に比べて高い傾向にある。青少年は学齢に応じて啓発経験率が上がる傾向にあり、小学生のうちには家庭での啓発が多い。

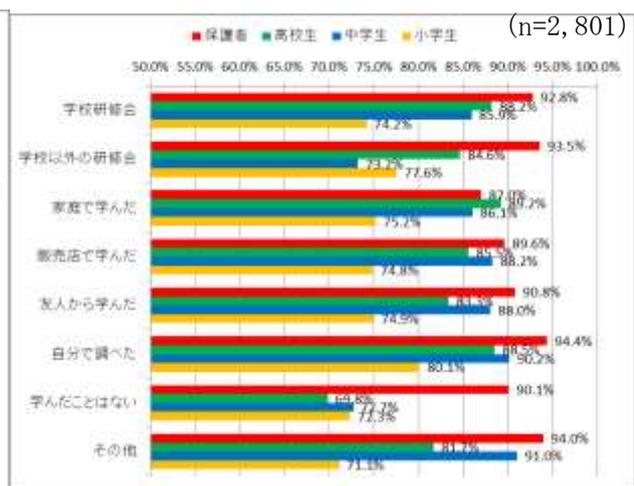
啓発経験と正答率の関係では、青少年では学んだことのない人のほうがリテラシーも低い結果となった。

図表 2-4-1. 対象毎の啓発経験別の正答率

##### ◆インターネットの啓発経験



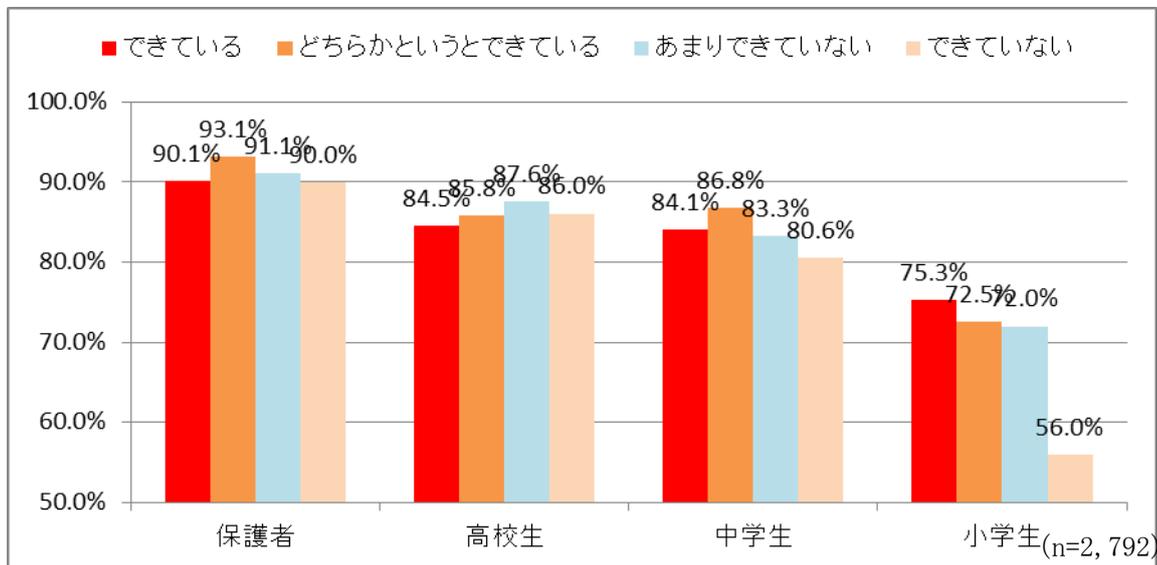
##### ◆啓発経験と正答率



## 2-5. 対象別×インターネットの適切利用自信別の分析

図表 2-5-1 より、自分自身がインターネットを適切に利用できていないと回答している場合、正答率も低い傾向にある。

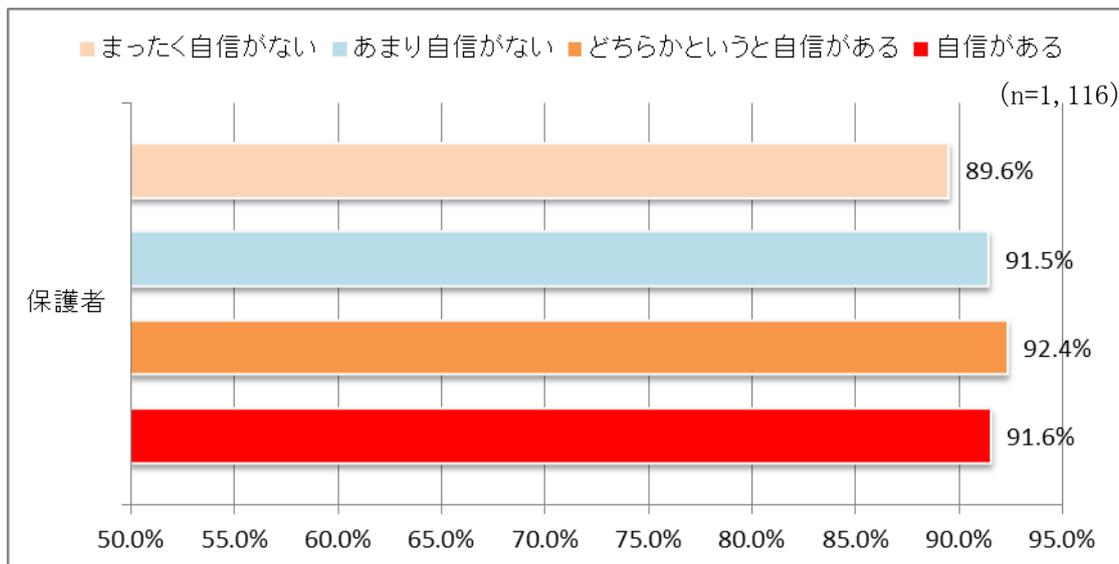
図表 2-5-1. インターネットの適切利用と正答率



## 2-6. 保護者のしつけに対する自信×正答率の分析

図表 2-6-1 より、子供のインターネット利用のしつけについては特徴的な傾向はみられなかった。

図表 2-6-1. 保護者の青少年しつけと正答率



## 2-7. その他

図表 2-7-1 より、保護者が考える青少年がインターネットを始める適切な時期については、昨年と比較すると小中学生 1～3 年生 (6%→9%)、小学校入学前 (1%→3%) の比率が高くなっている。社会環境の

変化により保護者の意識も変化してきていると考えられる。

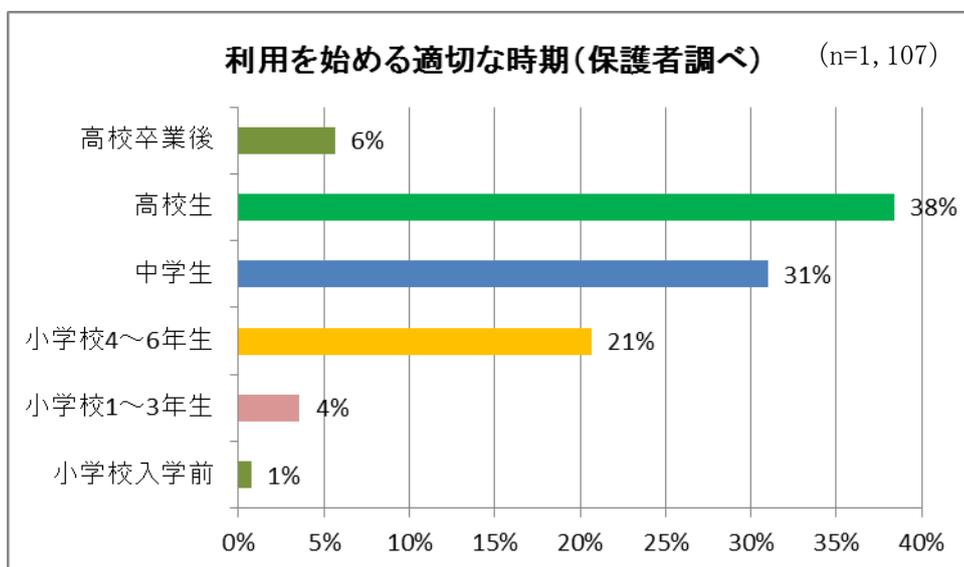
図表 2-7-2 では、青少年がインターネット利用に関して困ったときに相談する相手（複数回答）を示しており、親の割合が最も多いが、年齢が上がるにつれ、友達（リアル）の比率が高くなる傾向が見られる。

図表 2-7-3 では、ネット依存に対する意識を示しており、高校生の「とてもそう思う」「どちらかというと思う」の比率が高い。

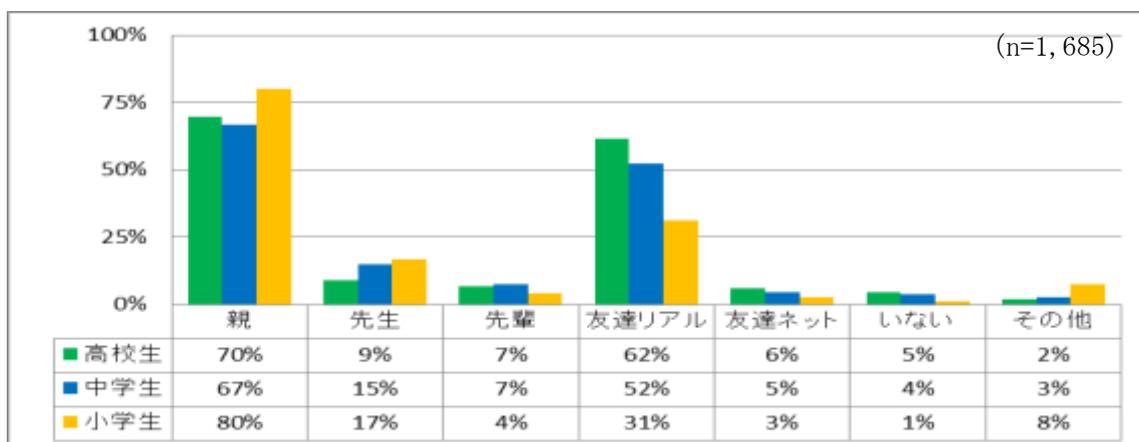
図表 2-7-4 では、ネット依存に対する意識と正答率を示しており、青少年では「どちらかというと思う」と回答した正答率が「あまり思わない」「まったく思わない」より高い。

図表 2-7-5 では、ネット依存と意識している人のモバイルでの利用時間を示しており、保護者、小学生では1時間以上の利用で過半数を超えるが、高校生では3時間以上、中学生では2時間以上と各年代で大きく異なる結果となった。

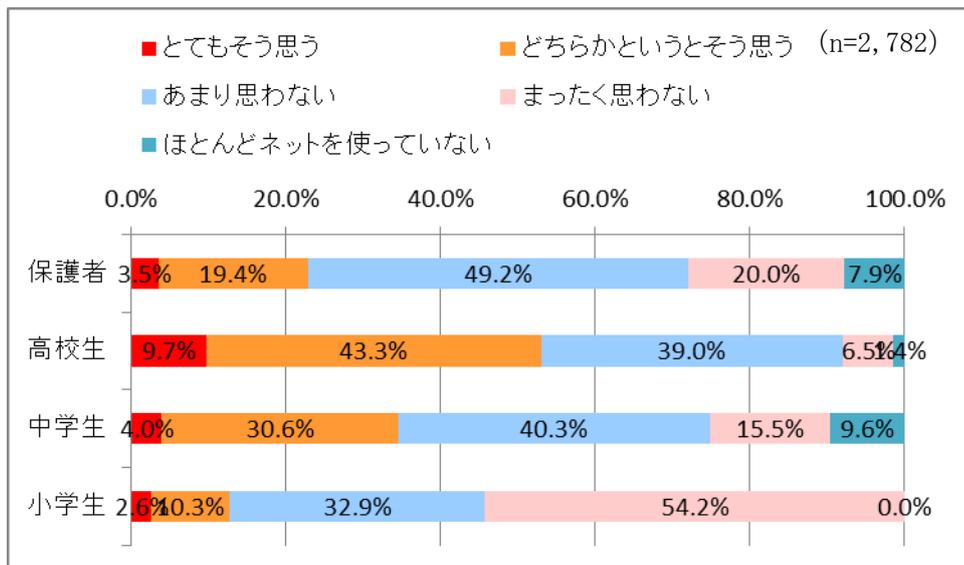
図表 2-7-1. 青少年がインターネットを始める適切な時期



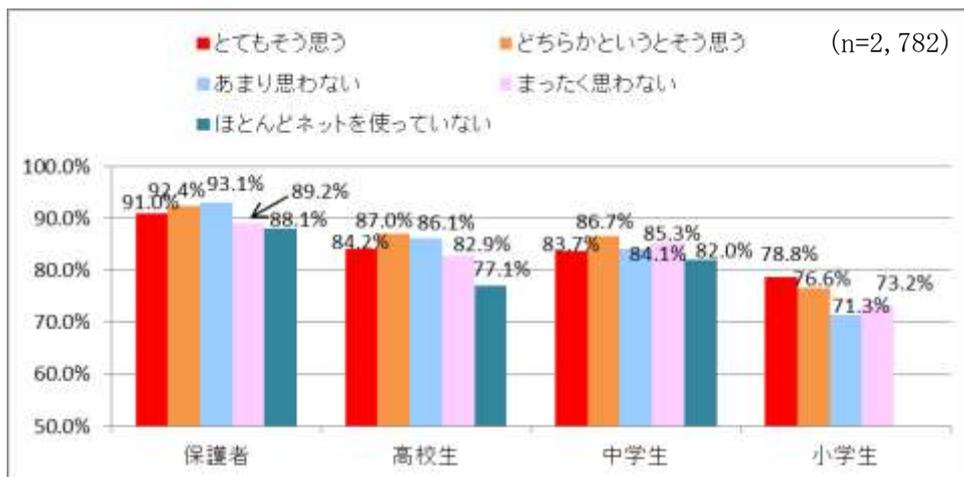
図表 2-7-2. 青少年の相談相手（複数回答）



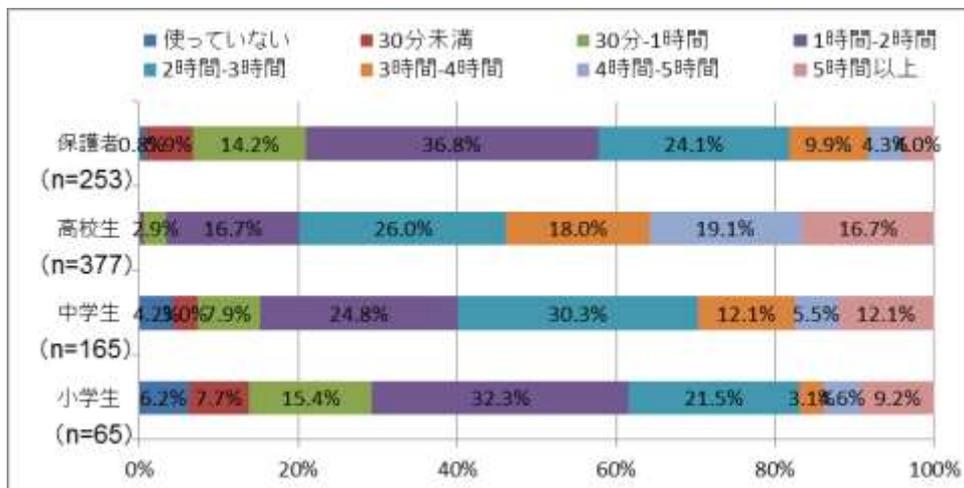
図表 2-7-3. ネット依存に対する意識



図表 2-7-4. ネット依存に対する意識と正答率



図表 2-7-5. ネット依存の自覚とインターネット利用時間 (モバイル)



「どちらかというと思う」「そう思う」と答えた人の利用時間。

### **3. 総括**

本年度は安心ネットづくり促進協議会関係者の「青少年インターネット健全利用」への啓発意欲とPTA等の多大な協力とによって、昨年度に引き続き約3千人規模(全体の協力者数3,044名:保護者1,258名、高校生752名、中学生518名、小学生516名)のテスト実施から分析までのとりまとめにつなげることが出来た。

調査分析の結果から、安心協ILASに定めた7つのリスクカテゴリーの全てにおいて、保護者は中高生に比べてリテラシーが高いという結果を得たものの、個別の問題においてリテラシーが劣っているリスクもあることが分かった。

このような保護者のリテラシーが劣っている傾向にあるリスクは、スマートフォン利用から生ずるリスクに関連性が高いと考えられるものであり、このような問題に対する理解を高める為の支援をすることが重要な課題となる。そのためには、保護者に対して、啓発教育を介して不足しているインターネットリスク情報を提供していくことが必要であり、共有すべき知識を提供することができる社会的機能を高めていくことが重要となると考えられる。

その方策の一つとして、学校を核とした地域コミュニティにおいて、啓発教育を組織的に提供してゆける体制を整えることが有効な手立てになると考えられる。

#### 4. 来期の活動方針

2017年度の実施結果を踏まえ、2018年度の普及啓発委員会の中で啓発方法を検討した。

小中高生の情報モラル授業や PTA 等の研修会にてネット利用知識や理解度の確認と、知らない知識の提供を兼ねた「安心協 I L A S」の実施事例も出てきており、安心協 I L A S の普及啓発のためのツールとしての有効性が高まってきている。

来年度も引き続き小学生から大人まで各対象のインターネット・リテラシーの経年傾向分析を行っていき、啓発ツールとしての活用の拡大に向けては、実施可能かつ短時間で回答できるテスト及び解説集の開発および環境の提供に向けて検討を進める。

##### - 安心協 I L A S の活動方針 (予定) -

- ・研修会やイベント会場で活用が可能な、問題数を絞った安心協 I L A S を展開する。
- ・設問は、リテラシーの経年比較をするために基本的に大幅な修正は行わない。
- ・副教材の作成（企業や学校で使って頂くための、ガイド）
- ・実施対象はバランスよく実施出来るよう進める。

		2018年									2019年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	テスト問題確認作成			■	■								
B	アンケート作成				■	■							
C	解説集の作成				■	■							
D	実施地の決定				■	■							
E	テストの実施						■	■	■				
F	データ分析（中間）									■	■		
G	個別フォードバック											■	■
H	最終報告書作成												■
I	副教材の検討	■	■	■	■	■	■						

## 5. 安心協 I L A S の本年度活用事例

安心協 I L A S は、リテラシーを測定するための指標としての側面だけでなく、情報モラル教材としてとて啓発教育にも活用することができる。ここでは、2017 年度に情報モラル教材として安心協 I L A S が活用された事例を報告する。

### 5-1. 学校教育現場における安心協 I L A S の活用

#### (1) 白河市教育委員会

##### ○内容

生徒と保護者に対して、安心協 I L A S を実施し、その結果は同市の「情報モラル教育」の広報資料に掲載された。

○対象者：白河市内の小学校 5 年生、中学校 2 年生の児童・生徒及びその保護者

#### (2) 福岡県立八幡南高等学校

##### ○内容

生徒のインターネット・リテラシーを評価するために、安心協 I L A S を実施した。

○対象者：本校 1 年生

#### (3) 群馬県総合教育センター

##### ○内容

安心協 I L A S を基に、生徒のインターネット・リテラシーを測定・分析した。分析の結果は、同県の技術・家庭科における情報モラル教育実践のための基礎資料として活用された。

○対象者：中学校 3 年生

### 5-2. P T A 組織活動における安心協 I L A S の活用

#### (1) 全国高等学校 P T A 連合会全国大会

##### ○内容

同会全国大会の基調講演において、安心協 I L A S を活用した啓発教育への取組を発表した。

##### ○対象者

全国高等学校 P T A 連合会会員の保護者

##### ○基調講演題目

「安心協 I L A S から見えてくるネットを使う子どもたちとの保護者の関わり方」